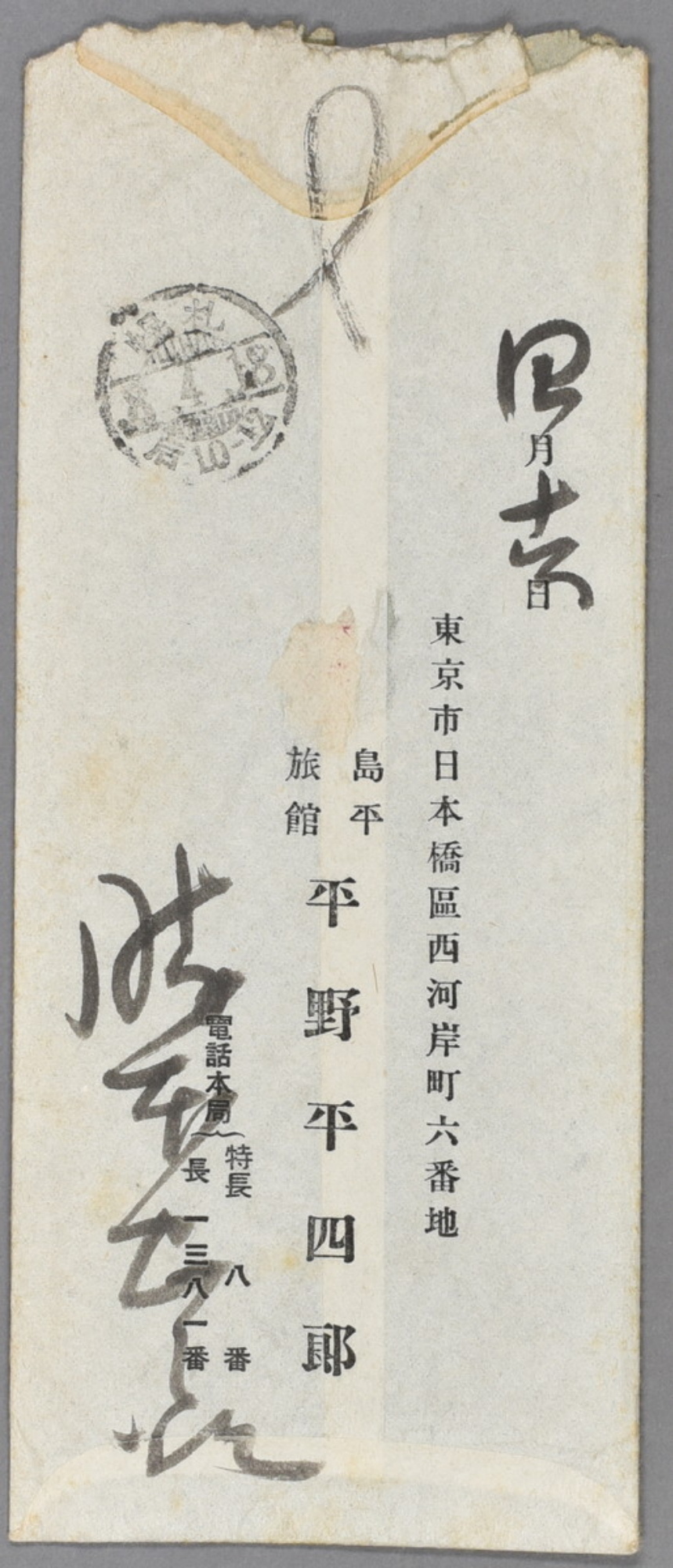
北海道札幌
農科大学
八田三郎殿



月
日

東京市日本橋區西河岸町六番地

島平
旅館 平野平四郎

電話本局 特長 八番
長 一三八一番

あるとき井伊で[illegible]
其名を遠江の國
二股の氣據ゝ事あるら
れんまおもはれ三河路へ
存分をとげしかねる
を語りし一時なりとも試
今代之れ士知れたの
陳富貴人之様をまもた
凡為好丹方繕礼の得
最ゝ中に生まま思ひ居ゝ
亦於浅承諾を得れはや
可感多數招れ候
要上なり明らかに生
一報之任す傳君之因
光見得之於[illegible]けん

可[illegible]
要上なる明らかなる
事敵なる故に使者に因
て其見物を為せん
ひとしかるべき早々
為相果の相待て
敵木の意後と為見
物の終れるを出陣
る事此方見の様
相を気乗なる見物
出来為るべかれ
此夜戸麓迄て相見
る使者を活の意大慶
若しを添れてなれば
前膳せしむるは
義の為と申し

る事に

理之気候平和に見物也

先生筆をとらせ給ひ候は

此夜月光清くて折から

古風来て話しあり大悦

若しと共に流れるなれども

前臆せしむるは

気の毒にお申し候

公人の結果にて御座候

論云共不在又々それ

轉書きもの早し

用心十二月

清水

十四日

御尊兄